

令和8年度第1回一関市子ども・子育て会議 会議録

- 1 会議名 令和8年度第1回一関市子ども・子育て会議
- 2 開催日時 令和8年5月21日（木）午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター1階 多目的ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 菅原敏会長、佐々木利恵副会長、木村政義委員、内記裕太委員、熊谷招子委員、永澤芳子委員、熊谷慶夫委員、千葉真樹委員、澁谷ひろの委員、小山佳代委員

※欠席者 千葉健太委員、小野寺浩樹委員、高橋仁省委員、千葉啓子委員

- (2) 事務局 佐藤和幸健康こども部長、
岩渕琢哉健康こども部次長兼児童保育課長、
坂本寿究子こども家庭課長、
菅野ゆう子こども家庭課長補佐兼こども企画係長、
鈴木園恵こども家庭課長補佐兼おやこ健康係長、
上原依子こども家庭課子育て応援係長、
佐藤綾香こども家庭課主任主事、
菅原飛翔こども家庭課主任主事、
千葉流瑠こども家庭課主事、
渡邊博幸児童保育課長補佐兼入所入園係長、
熊谷早祐泉児童保育課主任主事、
松舘昭まちづくり推進部いきがいつくり課主任、
佐藤智一教育委員会事務局学校教育課学校教育係長

5 協議・意見交換

- (1) 「一関市こども計画」の令和7年度の実施状況について
 - ① 教育・保育の量の見込みに対する確保策
 - ② 地域子ども・子育て支援事業の実施状況
 - ③ その他の取組の実施状況

(2) その他

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 会長挨拶

皆様お疲れ様でございます。今回は令和8年度の主な取組について意見をいた

だき、今回は、一関市こども計画の実施状況について意見をいただきたいと思う。先日国が発表した、15歳未満の子どもの数が45年連続減少し、前年度から35万人減っていることも同時期に発表された。2025年こども・若者総合調査では、生活上の困難に直面したことがあるという人が15歳から39歳で約6割いると報告されている。このこども・子育て会議では、委員の皆様から沢山意見を出していただき、一関市が地域で子どもを育ていけるようにしていきたい。

9 審議内容

(1) 「一関市こども計画」の令和7年度の実施状況について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 確認だが、資料1の「評価・今後の対応について」、きめ細かな入所調整の部分の、具体的な対応の現状を教えてほしい。

事務局 今までも実施はしているが、児童保育課の窓口に、保育コンシェルジュを配置し、保護者からの相談に対し、施設の空き状況や特徴などを伝えながら調整を図っている。

委 員 資料2の⑤養育支援訪問事業について、令和6年度の計画値から令和7年度の計画値が大幅に減少している理由と、令和7年度の実績が令和6年度に比べて20件程度減少しているのは、養育に関する助言指導のおかげで適切に養育できる人が増えたからと捉えてよいのか。

事務局 確認不足であるが、おそらくこの計画値の250件は養育支援訪問事業と発達支援相談の2つを足したもので、令和7年度の計画値については純粋な養育支援訪問事業のみの数値で表したものと考えられる。今回実績として掲載した184件については発達支援相談の件数も含めて載せたものであり、養育支援訪問事業のみとすると91件が正しい数値で、横ばいである。

委 員 ⑦子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業について、「評価・今後の対応について」記載されている「具体的に見守りポイントに関して共有したことにより、受理件数が増加」の部分について、共有したことで今まで見落とされていた事例をキャッチアップできるようになったという解釈でよいのか。

事務局 国からの通知により、虐待のおそれがある事例について通報の義務があるなどの周知を各園に出向いて説明した結果、よりきめ細かな対応につながったと思う。

委 員 ⑮子育て世帯訪問支援事業について、令和6年度の実績から令和7年度の実績が倍近くとなっているが、これは利用世帯が増えたのか、利用世帯数は横ばいで、回数が増えたのか。

事務局 令和6年度については実績が9世帯84回で、令和7年度については実績が14世帯175回となっている。周知方法としては、窓口で母子手帳交付の際などに配布したり、こども家庭支援員が必要に応じて利用勧奨を行っている。

委 員 ⑬実費徴収に係る補足給付を行う事業について、評価・今後の対応が他の事業に比べて不明瞭だが、何を意図しているのか。

事務局 低所得世帯が対象となる事業だが、一度負担したものについての助成のため、今後事業の継続自体も整理していかなければならないという意味で記載した。

委 員 ⑰親子関係形成支援事業について、参加した人の満足度や、実際の育児に効果は出ているのか。参加後のフォローなども行っているのか。

事務局 プログラムに参加してすぐに効果が出るものではないが、定期的なフォローについては、保健師などが定期的な訪問により支援を継続している。引き続き事業を育てていきたい。

会 長 どういったプログラムで実施しているのか。子ども・子育て会議の中で前から「親育て」の必要性は話題になっているが、こうした事業ができ、前進はしてきていると思う。

事務局 この事業の目的としては、成長に応じた助言や、同じ悩みを持つ親同士の交流の場を作ること、親子間の適切な関係構築を図ることとし、実施している。1クール4回で行っており、効果的な指示の出し方などの設定を踏まえてグループワークなども行っている。

委 員 虐待などの通報があった際にどのように対応しているのか。

事務局 通報の内容やレベルも様々だが、初動としては把握した事実を基に受理会議を行い、対応方針を検討していく。児童相談所などの関係機関と連携し48時間以内に対応している。

委 員 園の職員としても、最近は気になる親御さんがいても仕事が忙しそうでなかなか声掛けができない。親からしても、ゆっくり相談できる状況にないと思う。園としてもできることを行っていくが、なかなか難しいのが現状である。

会 長 こども計画を作る際も、相談できる場所作りというのは大きなテーマであったと思うので、今後も関係機関と連携しながら整えていかなければならない。

委 員 親子関係形成事業について、自分の家でも何が正解か分からないまま育児をしていて、日々不安になることがある。相談する場所があるとよいという問題もあるが、親が気付くきっかけとなるような場面があるかどうか、市側は発信をしているのか。

事務局 乳幼児健診の間診票のアンケートをお母さんに書いてもらい、母の状況を把握し話し合う機会を設けている。

委 員 乳幼児健診だと小さいお子さんの育児に対してだと思うが、小中高と年齢が上がれば子育ての仕方も変わっていき、新たな悩みが出ると思う。幅広い子育て世代に向けて親の気づきを促す発信をしていただければと思う。

事務局 こども家庭課ではどうしても就学前の子どもがメインになってくるところもあり、庁内で共有し就学後のお子さんについても支援が行き届くよう心掛ける。

委 員 放課後子ども教室について、今はなかなか子どもたちが自然に触れて遊ぶ機会がなくなってきていて、その中でこうした取組は非常に素晴らしいと思うので、ぜひ熊や熱中症に気を付けて活動を続けてほしい。

委 員 園の活動を行う上でも、熊の問題があり、今までできていたことができなくなっている。外での散歩など子どもたちも楽しみにしている時間だが、熱中症のリスクや熊問題でほぼできていない。こうした中で保育の在り方も変えていかなければならないが、限界がある。こうした中で何か対策はあるか。

委 員 当園においても、あまり外での散歩はできておらず、園内のグラウンドのみの対応となっている。

委 員 外に出られなくなるとお昼寝もしなくなり、保育の仕方の工夫も大変である。室内だけでは子どもたちもストレスが溜まり、遊び方も工夫しなければならず、どうしたらよいか悩ましいところである。

会 長 これといった対策方法を述べることは難しいが、それぞれの立場で無理のない範囲で安全に気を付けていただければと思う。

(2) その他

会 長 今回こども計画の実施状況を確認したが、あくまでこれは基本計画の一部に過ぎない。意見の中で出てきた周知や関係の構築なども含めて、計画の中で数値はなくとも大事な目標であると思う。そうした点を踏まえて、評価検証していくこととしているので、次回以降状況を報告し皆さんから意見を広くいただきたいと思う。

10 担当課 健康こども部こども家庭課